

## 第 209 回 日本材料学会 岩石力学部門委員会 議事録

日 時：平成 25 年 4 月 26 日（金）－27 日（土）

場 所：奈良県五條市～十津川村

出席者（敬称略）：石田毅（委員長）、中西一郎、奈良禎太（幹事）、陳友晴、寺田直道、長谷川信介（幹事）（計 6 名）

### 1. 見学会

場所：国土交通省近畿地方整備局紀伊山地砂防事務所管内

地滑り崩壊地対策現場（清水（宇井）地区、赤谷地区、長殿地区）

内容：

国土交通省の後藤建設監督官ほかのご案内で、上記 3 箇所の地滑り崩壊地対策現場を見学した。平成 23 年の台風 12 号により紀伊半島では広い範囲で 1,000mm を超える記録的な大雨となった。これにより、紀伊半島の各地で土砂災害が発生した。なかでも今回見学した 3 箇所は大規模な地滑りが発生した箇所である。清水（宇井）地区では、高さ約 270m、幅約 200m、崩壊土量約 150 万  $m^3$  の大規模地滑りが発生した。崩壊土砂は対岸の住宅を飲み込み、この地滑りで死者 7 名が亡くなられ、現在も 4 名の方が行方不明者となっている。地滑りは、雨が止み、避難していた住民が自宅に一時戻った時に発生したとのことである。これらの住宅は比較的高いところにあり、まさかこのようなところまで土砂が来ようとは容易に想像できない場所に位置する。それほど大規模な地滑りであった。ただ、清水（宇井）地区は、見学させていただいた他の 2 箇所に比べると崩壊規模は小さい。赤谷地区は、今回見学させていただいた中では最も崩壊規模が大きい。高さは 600m を超え、斜面長は 1,000m、崩壊土量は 900 万  $m^3$  に及ぶ。崩壊土砂は河道を閉塞し、上流に湛水池が形成された。河道を閉塞した土砂の高さは 85m に及ぶ。この天然ダムが崩壊すると大量の土石流が生じ下流に甚大な被害を生じさせる恐れがあることから、越流による崩壊が生じないよう対策を講じるとともに土石流の発生を抑制するための砂防堰堤の建設が進められている。ただ、崩壊規模が大きく、現在でも雨が降るたびに土砂崩落の危険性があることから、斜面は手付かずの状態にある。長殿地区は、高さ 450m、幅 300m、崩壊土量 680 万  $m^3$  の大規模な地滑りが発生した箇所である。崩壊土砂は河道を閉塞し上流に湛水池を形成させた。閉塞させた土砂の高さは 80m に及ぶ。ここでは、緊急対策は完了し、現在は恒常対策のための準備が進められている。今回見学させていただいた地滑りの規模はあまりに大きく、自然の力に圧倒された 1 日であった。

## 2. 部門委員会審議

### (1) 前回議事録の確認 (資料 1 頁)

長谷川より説明があり、承認された。

### (2) 退会者のお知らせ (資料 3 頁)

長谷川より、退会者 4 名の報告が行われた。

### (3) 予算・決算について (資料 4 頁)

長谷川より、平成 24 年度の決算の報告が行われた。

### (4) 第 62 回学術講演会の案内 (資料 6 頁)

長谷川より、平成 25 年 5 月 17 日 (金) ~19 日 (日) に東京工業大学大岡山キャンパスで開催される第 62 回学術講演会についての説明が行われた。

### (5) 会誌「材料」への投稿方法の変更 (資料 8 頁)

奈良委員より、材料への投稿方法が変更になり、最終原稿がカメラレディ原稿となるという報告が行われた。

### (6) 岩の力学連合会報告 (資料 10 頁)

石田委員長より、岩の力学連合会の報告が行われた。

### (7) 岩の力学連合会：理事と代表社員の推薦について (資料 12 頁)

長谷川より、材料学会から、岩の力学連合会の理事として石田先生、笹尾委員、代表社員として清木委員、奈良委員、西山委員、畑委員を推薦したという報告が行われた。

### (8) 次々回の特集の案内

長谷川より、次々回の特集号の日程が決まり、岩石力学特集号は平成 28 年 4 月になるという報告が行われた。

### (9) 第 57 回日本学術会議材料工学連合会に関する協力依頼

岩石力学部門委員会としては、オーガナイズドセッションは出さないことが決まった。

## 3. その他

第 210 回部門委員会は、平成 25 年 7 月 17 日 (水) か 8 月 9 日 (金) を予定する。

以上